

大館城の規模や歴史の一端を案内

城門跡7カ所に標柱設置

史跡等標柱設置事業



桂城公園に残っている本丸の土居跡と内堀跡
(石垣は昭和になつてから築かれたもの)

市では、平成元年度から市内の歴史的な建物、街道やその所在地跡等に標柱を設置する史跡等標柱設置事業を進めています。これは、大館をより理解してもらい、さらに観光にも役立てるために始められたものです。二年度には、大館地方の歴史的役割の中心となってきた大館城の城門跡七カ所に標柱を設置しました。標柱の位置からは城の規模がわかりますし、標柱の説明文からは歴史の一端がわかるようになっていきます。

大館城の歴史

大館城(桂城ともいわれます)は、天文年間(一五三二〜一五五四)に浅利勝頼によって築かれたと伝えられています。その後、城主が秋田氏、南部氏、秋田氏、浅利氏、秋田氏の家臣に替わり、慶長七年(一六〇二)

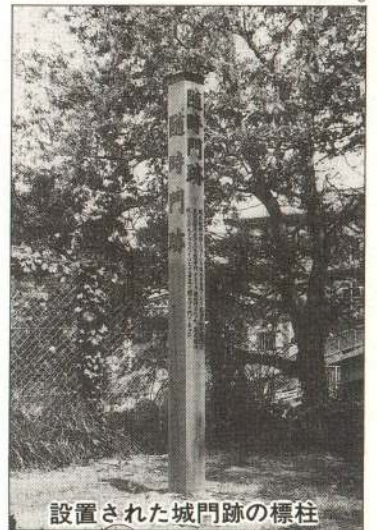
秋田へ転封となった佐竹氏の所有となりました。慶長十五年(一六一〇)大館城代として小場義成氏(後の大館佐竹氏)が入城しました。小場氏は、浅利氏時代に築かれた城郭の改修と拡張に着手し、さらに城を中心とした城下の町割にも着手しました。元和元年(一六一五)には幕府から一国一城令が出されましたが、大館城は、久保田城の支城として横手城とともに残置を許されています。

城郭の改修と拡張が完成したのは寛永十年(一六三三)、城下の町割が整ったのは延宝三年(二六七五)になってからのことです。この城は、明治の初めまで大館・北秋田地方の統治の中心としての役割を果たしてきました。

城の規模と城下の町割

大館城は、米代川と長木川に挟まれた河岸段丘状の台地に築

かれた平山城です。城は石垣のない土居造りで、本丸、二ノ丸、三ノ丸などの区画に分けられ、堀が設けられていました。本丸(現在の桂城公園)にあった建物は館造りでした。



設置された城門跡の標柱

宝曆九年(一七五九)の大館城下絵図によると、城の規模は、本丸が東西九七間(約一七六m)、南北五〇間三尺(約九一m)、面積約五、四〇〇坪(約一七、八〇〇平方m)、二ノ丸が東西二七八間三尺(約五〇六m)、南北六一間二尺(約一一一m)、面積約一八、〇〇〇坪(約五九、五〇〇平方m)、三ノ丸が東西八二間(約一四九m)、南北七五間(約一三六m)、面積約六、〇〇〇坪(約二〇、〇〇〇平方m)です。このほかに外部がかなり広く設けられていて、外壕内と赤館柵までを含むと全部で約一〇〇、〇〇〇坪(約三三〇、〇〇〇平方m)ほどの広さになります。城下は、城を中心にして侍屋敷や足軽屋敷などのある内町と商人や職人などの住む外町とに町割されました。内町には、三ノ丸、上町、長倉町、片町、部垂町、赤館、桜町、向町、近藤町、金坂、裏町、八幡町、久保町、谷地町、足軽町など、外町

城には七つの城門

には、大町(荒町)、馬喰町、中町、新町、鍛冶町、大工町などがありました。戊辰戦争で大館が南部軍に攻められた慶応四年(一八六八)、城や城下町が戦火で焼失したため、今は昔の面影がほとんど無くなりました。地名は今でも字名として残っているのも多く、また本丸跡の桂城公園入口付近には、土居跡と内堀跡がわずかに残っているだけです。

城には、追手門や搦手門など七つの門がありました。市では、昨年十二月その七カ所の城門跡に木製の標柱を設置しました。門の名称と現在の位置などは次のとおりです。

虎門

城の出入口を虎口といひ、一の門にあたる所をいいます。